



阿賀には、懐かしい風景と
新しいロマンがある

発行 阿賀野川漁業協同組合／事務所 阿賀町石間3881-4 ☎0254-99-1031 FAX1035

第12号

<http://www.aganogawa.jp/>
E-mail info@aganogawa.jp

発行 2018/8月上旬
阿賀漁協組合報

- * 第59回通常総代会開催される
- * 第三次計画(案)提示31年度より実施に向けて
- * 新役員(改選)決定される!
- * 観察報告(マルヤマ牧場、あじさい野牧場)
- * 阿賀野川水系遊漁券協議会報告



(明治40年から大正7年ごろ発行の絵葉書より～写真提供／田辺修一郎氏／場所：阿賀町小花地区本尊岩付近)

一水運華やか一

あのイザベラバード女史が、日本奥地紀行（明治11年）で、「うっとりするような風景が32マイル（19キロ）も続いた。」「ライン川よりも美しい」と絶賛している。

江戸時代から物流は船運が主流で、新潟港から上流「津川湊」まで運び人々の暮らしを支えた。まるで墨絵を観るような光景は、「揚川ダム」（昭和38年供用開始）の建設がなされるまで続いた。

イザベラバード女史もこの光景に驚嘆し、ライン川に勝ると思ったのも頷ける。

開話休題

“あ々阿賀が愛おしゅ”

本紙の創刊号で、「阿賀は川の死骸だ」これは旧三川村のお年寄りから戴いた嘆きの述懐を掲載したものだが、あれからもう十一年が経つ。アユが釣れない。大きくならない。追いが悪い。サケマスの豊不漁まで組合に苦情が来る。これに加え昨今では、カワウの被害まで組合に何とかしろと言う。阿賀野川に建設された最初のダムが豊実発電所ダムで、昭和四年のことである。この時の建設同意書に、発電所魚道の運用は通年通水をしなくても良いことになっている。この契約書は今も有効に機能している。九十年前の契約を今も履行しなければならない最大の理由は、新潟県には内水面振興計画が策定されていないことが要因ではないだろうか。時代に即応したダム運用規程など、その振興計画が時世を勘案したものな

らこうまで阿賀は荒廃しなかつた、だろう。具体的な提案を申し上げたい。アユもサケマスも遅ればせながら、県水産課でも内水面振興計画を成していい。その機能を成していいのだ。それは、ダムの全開放が平成二十三年以降ほとんど行われていがない。このことから、堆積した泥炭が腐敗しガスを発生している。加え、ゲート開放も頻繁に無いことから河床への耕耘効果がなされず、産卵床としている。この影響が出ていていること明白である。内水面振興計画の早期策定から、ダム放水に関する新しい運営規定を設け、人工放流から軸足を河床整備に切り替えてゆくことが、貴重な自然環境を後世に贈る我々の最大の責務であると思うが。

（寄稿 村山）



2018.08.03

【豊実ダム沿革】

豊実第1発電所は昭和4年竣工・最大出力4万4800kWで供用開始。平成25年設備更新工事により最大出力6万1800kWに増量した。総貯水量・1866万7千m³。

近代構造物2000選に選ばれている。（※写真右の白い建物が改修された発電棟）

豊実第2発電所は、昭和50年に竣工・最大出力5万7千kWで供用開始。福島県の利水、新潟県の治水に大きな貢献をして来たことは確かだが、河川環境の保全と言う観点から負の占める割合も少くない…。（※ダム右岸下流に発電棟）

第59回 平成30年6月17日(日) 五泉市福祉会館 通常総代会開催される

総代総数100名の内、本人出席69名、委任状12名（内代理1名）、書面議決1名で、12の議案を審議し、全て承認された。

平成30年度予算のあらまし

(前年度対比 336千円増)

【収入】

(単位：千円)

賦課金	6,230	組合員890人×7,000円
特別賦課金	3,509	さけ、さくらます特別賦課金
受入漁料	368	遊漁証売上配分金
受入補助金	969	カワウ・外来魚駆除対策費、阿賀町補助金等
指導事業収益	8,000	漁業補償金
稚魚代(さけ・あゆ等)	2,144	新潟県・県内水面漁連買上分等
その他	1,028	申請手数料等
合計	22,248	



総会の様子

【支出】

(単位：千円)

人件費	6,279	役員報酬、職員・臨時職員給料等
旅費交通費	1,020	旅費交通費
事務費	982	消耗品費、通信費、リース料等
業務費	740	会議費、連絡員手当等
支払賦課金	475	新潟県内水面漁連賦課金
増殖経費	420	さけ稚魚購入代（20万尾）
増殖施設整備費	400	採捕場設備費、ふ化場資材費等
施設費	596	光熱費、施設管理費等
減価償却費	203	事務所、ウライ施設、岩谷ふ化場
繁殖保護費	7,103	稚魚代金、さけ・あゆ等の飼育経費、さけ・ます供卵代、カワウ対策費等
事業外費用	3,251	補償金地区返還金等
その他	779	法人税、ファックス手数料等の雑費、予備費
合計	22,248	

平成29年度收支決算状況 (91千円の黒字)

(単位：千円)

収入		
科目	金額	備考
賦課金	6,370	組合員910人×7,000円
特別賦課金	3,650	さけ、さくらます特別賦課金
受入行使料	112	やな、釣堀、小阿賀野川増殖負担金
受入手数料	234	申請手数料等
受入漁料	468	遊漁証売上配分金
受入補助金	983	新谷川あゆ放流事業補助金、カワウ・外来魚駆除対策費等
指導事業収益	7,958	漁業補償金
稚魚代(さけ・あゆ等)	1,669	新潟県買上、県内水面漁連買上
その他	303	雑収入、預金利子
合計	21,747	

支出		
科目	金額	備考
人件費	6,358	役員報酬、職員・臨時職員給料等
旅費交通費	845	旅費交通費
事務費	985	消耗品費、通信費、リース料等
業務費	777	会議費、広報宣伝費、連絡員手当等
支払賦課金	483	県内水面漁連賦課金
増殖経費	574	さけ稚魚購入代 20万尾、さくらます稚魚代
施設費	544	光熱費、施設管理費等
減価償却費	482	事務所、ウライ施設、岩谷ふ化場
繁殖保護費	6,877	あゆ稚魚代金、さけ・ます・あゆ飼育経費、さけ・ます供卵代、カワウ駆除費等
事業外費用	2,909	補償金地区返還金等
法人税等	180	法人税等
その他	642	ファックス手数料、岩谷ふ化場資材代等
合計	21,656	

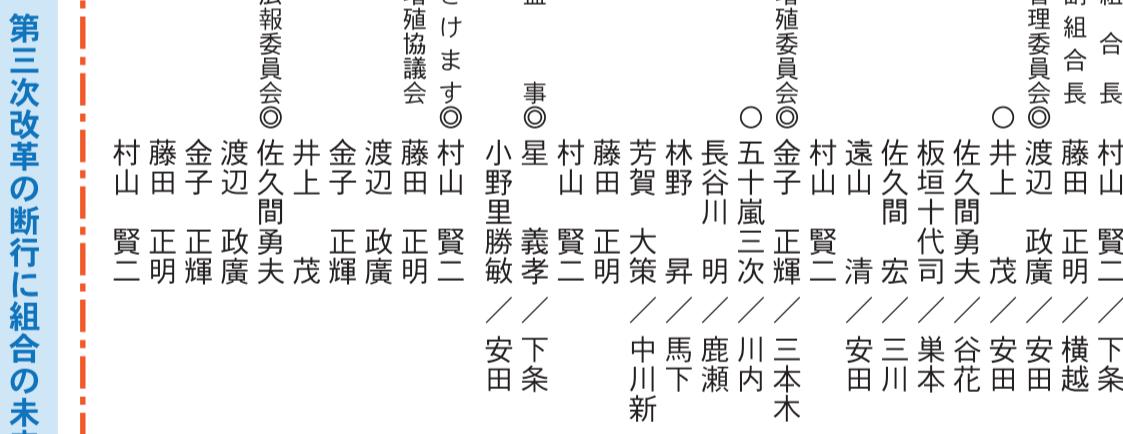
予算との比較

収入…特別賦課金9万円減、さけ・さくらます・あゆ稚魚代7万円減、指導事業収益（漁業補償金）4万円減、全体では16万円の減。

支出…人件費3万円増、旅費交通費13万円減、業務費9万円減、増殖経費15万円増、施設費5万円減、減価償却27万円増、雑費26万円増、繁殖保護費8万円増、事業外費用36万円減、全体では25万円の減。

役員改選の結果

新役員及び構成



馬下	佐取	小松	下条			三川			谷花	津川			鹿出瀬	地区名
相良田平川	石井	石井	皆板渡	小渡	川波山清浅	佐清	阿清	阿阿	五五	清加	阿野	長佐藤	青柳	高橋
江良田正雅	隆重	紀廣一	渡山	山田	野里	藤野	野	五十	五	藤野	野	佐藤	行	氏名
権江	正信夫	正修宏	藤山	渡山	里	野	山	村	村	藤野	野	佐藤	芳辰雄	
田平川	信一	仁夫	勝敏孝	正明	勝義	勝	野	子	子	野	山	藤野	辰雄	
平川	廣一	二明輝	茂輝	正政	正賢	正大	野	山	山	野	山	山	辰雄	
		廣明	廣明	正政	正賢	大	野	村	村	野	山	村	辰雄	
		二	二	二	二	二	野	村	村	野	山	村	辰雄	
							川	川	川	川	川	川	辰雄	
							下	新	本木	本木	本木	本木	辰雄	
馬内	川内	新津	新閥	三本木	赤海	川瀬	巣本	赤羽	中川新	中川	赤羽	中川	西堀	地区名
塚野十辺	渡酒五	渡酒五	帆苅辰衛	山村田	伊藤武	忠嘉弘	利裕	横井一寿	佐藤英一	佐藤英一	横井一寿	佐藤英一	西堀良徳	氏名
嵐	井十辺	井十辺	井辰衛	田	伊藤武	弘光夫	行忠雄	健彰昭	佐藤英一	佐藤英一	横井一寿	佐藤英一	西堀良徳	

組合員を募集しています。
阿賀野川はすばらしい河川です。
お待ちしています。

☎0254-99-1031

(100名)

新総代の方々

牧場の現地視察を終えて

近年、漁協関係者や釣り人から臭うから釣りにいきたくない。糞尿を垂れ流しているのではないか等の問い合わせがある。また、役員会議に於いても度々、現地視察をすべきとの意見が上がっていた。このようなことから、七月十二日、アユの盛期前にマルヤマ牧場（阿賀町新谷地区）と、あじさい野牧場（阿賀野市六野瀬地区）の現地視察を行つた。

◆マルヤマ牧場は、平成二十六年二月に現地視察を実施して、污水浸透対策、糞尿の排水対策、異臭対策等を要望し施設の改善をして戴いた経緯がある。その確認と新たに建設している施設の現状を視察した。現地に着くと、以前のような臭いはしなかつた。異臭対策として、牛舎から搬送された糞尿を吸収した才方くずを、堆肥舎で攪拌発酵させて完熟肥料に生成している。乾燥しているので手に取つても臭いはない。

また、污水・雨水対策は五基の集水槽により対応している。

新たに砂利プラント跡地に堆肥舎を建設している。地区からの要望で集水槽の整備は終えていたが、雨期に排水路を確認したい。

◆あじさい野牧場について、雨が降ると茶色い水が、高速道路脇の貯水池に流れてくる。また、藤戸川も同じように流れて来るとの苦情がある。汚水・雨水対策はどうなつてあるのか。現地で確認すると牧草地の一角に既設の集水槽はあるが、ここを利用しないで直接、排水路に流している。

今後は、この集水槽を整備して、污水等を一旦ここに落としてから、排水路に流すようお願いし、後日、改めて施設の改善要望書を提出することにした。※集水槽は、阿賀野市の所有で後日、市の方へも改善等を要望することにしている。

管理委員長／渡辺政廣



あじさい野牧場
集水槽（写真奥）の現状確認



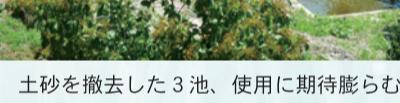
マルヤマ牧場
堆肥舎で完熟肥料の作業工程を聞く

第三次改革による 孵化場及び一括採捕場整備計画

第三次改革による

岩谷ふ化場は丸三年が経過し、生産能力は、サケ七十万尾・サクラマス約七万尾・アユ五万尾で、現状における整備は一応終了しましたが、サケに関しては池の容量から約三十万尾を他の漁協より購入して、増殖計画尾数を満たしています。これを何とか目前でできないものかと、現孵化場脇にある池を整備し、サケ・サクラマス・アユの生産量増と、飼育閑期を利用して子供向け釣り堀の開設なども、第三次計画に盛り込みたいと考えております。

※小阿賀野川一括採捕場は、昭和三十五年頃からの施設と言ふ事で、今まで何度も継ぎはぎで対応してきましたが、さすがに限界でありますので、河川内施設と陸上施設等に分け、二か年程度かけ（四十万円程度）整備を進めます。具体的には、委託している新津鮭組合の皆さんと相談しながら進めて参ります。



第三次改革の概要(案) 平成31年度より具体的取り組み

改革の趣意



近年における内水面漁業の現況は極めて厳しい状況はこれまでの仕組みで組合員の権利を保全し、利便の提供を図ることは困難である。組合員の減少が続き、いよいよ八百人の時代に突入した。必然的に主たる財源である賦課金の減少も続いている。これに加え、河川工事からの補償金や、増殖協力金も近年の河川改修の進捗によって多くは望めない状況にある。こう言った負のスパイラルによって財政の圧迫は更に顕著に現れて来ている。このことを正面から捉え、近未来的に対応できる組織改革と新規事業への参入など、具体的な財政基盤の強化に向けた取り組みが必要との認識から改革案を提案したい。

財政対応

- ①人件費の削減として、賞与規程の見直し、現行での支給は、単年度における経営状況を加味したものでなく、年度によっては、組合の負担となつていることから、単年度実績による支給が望ましい。
- ②旅費規程の適用範囲の縮小など、職員の協力をお願いする。
- ③役員の費用弁償の対象となつている出席等での昼食代の取扱いも検討する。
- ④組合員八百人を割ると、組合は赤字団体となる可能性が高い。賦課金の増額も検討。
- ⑤補償金分配率の変更も財政対応から、やむを得ない。（検討委員会を設置）

新規事業への取組

- ①増殖事業の拡大と強化策として、別項でも触れましたが、サケについては一部購入している三十万尾を飼育池の整備から自前で全数販賣することで購入費の一部削減と、県買い上げ金の増額。
- ②アユの中間飼育稚魚を今年五万尾放流したものを七万尾程度に增量することによる購入金差額の増額。
- ③サクラマスは、当該河川での捕獲に安定がなく、なかなか難しい面もあるが、定め参ります。

策定の考え方

今回示した策定内容は、冒頭に（案）とあるように、我々素人では、これが正解と言うものは御座いません。正直、暗中模索と言うのが本音で御座います。

しかし、放つておけば間違ひなく立ち行かなくなることは明白であるので、組合員皆様のご意見を逐次お伺いする中で微調整を行い進めて参りたいと考えております。

地区との連携事業

- ①地区との連携と、地区単体事業への一部助成や、催しに協賛し連携を深める。
- ②労働者等表彰規程を設け、感謝を表す。
- ③地区懇談会を随時設け、出来るものから速断実行する。

地区数

*二十地区（現行二十五地区）

組織

理事	…
監事	…
職員	…
事務局	…
ふ化場	…
臨時職員	二名

十一名（二名減）
二名（現行通り）
正規事務職員一名

- ④サーモンファーミング事業は、諸般の理由で中断しているものの、近い将来に再開できるよう関係漁協に働きかける。
- ⑤近年の若者志向である、湖沼におけるゲームフィッシングは高い伸びを示している。共同漁業権の枠外でもあることから、一般業者の参入は更に続くものと考えられるので、昨今の遊漁者志向を捉え当組合でも事業化出来るか検討する。（湖沼のみの会員制も視野に検討する）

